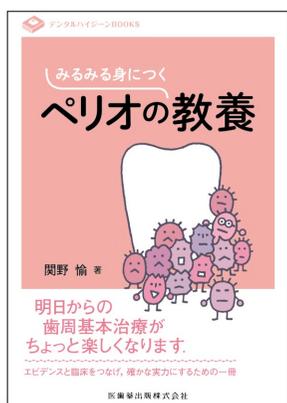


知識と臨床をつなげる 歯科衛生士必読の書！



デンタルハイジーン BOOKS

みるみる身につく

ペリオの教養

関野 倫 著

A5判/136頁 定価 2,800円+税
医歯薬出版 (2019年6月)

COCO Dent Medical
評・石原美樹 (歯科衛生士)



楽しみにしていた本が届きました。私はここ数年、関野先生をはじめ文献ベースで書かれている本を意識して読むようにしているので今回の著書も楽しみにしていました。

「臨床の質を上げたい!」「患者さんにとって有益なものを選択したい!」「自分の行っている医療は正しいのかもっと自信をもちたい!」。臨床家なら誰もが考えることでしょう。若いころは知識を増やそうと講習会や書籍を読んだりしましたが、歯科の情報は複雑かつ多岐にわたり、勉強するほどに迷うことも多々あります。どのように情報を選択するのか、これは若い歯科衛生士にもぜひしっかり考えてほしいことです。このようにいうと難しく感じる方もいるかもしれませんが心配いりません。

まずこの本を手にしてペラペラとめくってみ

てください。「あれ? これ普段私が悩んでいることだ!」「これ私も知りたい!」と、臨床をしているとかならず誰もが疑問に感じる内容を疑問文形式かつ文献ベースで簡潔に解説されています。

ベテランの歯科衛生士にははじめに書かれている NewTopic をぜひ読んでほしいです。約20年変わらなかった歯周炎の分類が、2017年シカゴで新しく発表されました。今回、もっとも注目すべきは侵襲性歯周炎と慢性歯周炎の分類がなくなり、すべてをステージとグレードに分けたことだと思います。このことについては Topic1 に、そして Topic2 にはすこしずつ変わっていく歯周炎の病因論への、現在もっとも有力な考え方である「ディスバイオシス」と「キーストーン病原菌」について理解が深まると思います。

本書はこの後から1章が始まり、7章までは歯周炎についての疑問がカテゴリーごとにまとめられています。8章から11章までは歯科衛生士業務に直結するブラッシング・SRP、根分岐部病変、治療について取り上げられていて、私も何度となく悩み考えた疑問に対し、解説してくれています。そして最後の12章はメインテナンスについてまとめられていて、歯周治療における病因論からメインテナンスまですべてをどう考えるか、その裏づけにはどんなものがあるのかということのを的確に、短い文章でわかりやすく紹介されています。普段文章を読む時間のとれない方や、文献に興味があるけれど難しく読めない方などにもお勧めです。

自分の専門である歯周治療、その治療として行う行為にどのような裏づけがあるのかを知る第一歩となる本であり、知れば明日からの臨床における患者説明や処置に自信がもてると思います。私も熟読し、いままでもっていた知識や経験が見事に整理され、さっそく臨床に役立っています。本書はまさに臨床への即効性のある教養本です。